

多発性骨髄腫研究助成 2023 年度研究課題選考会総括

本研究助成は、骨髄腫患者さんとそのご家族、そして日本骨髄腫患者の会の活動を応援していただいている多くの方々のご厚意とご寄付により成り立っています。2002 年度に始まり、本年度は第 22 回研究助成となります。骨髄腫診療に携わる医師や研究者にとっても、名誉ある研究助成として認識していただいています。「骨髄腫の完全治癒あるいは治療の進展に対する強い願い」という患者さん視点で、厳しく選考させていただきました。今年度の審査委員会では、応募課題 12 題について研究の「重要性」「計画・方法の妥当性」「独創性」「波及効果」「遂行能力・研究環境」の 5 つの評価項目及び総合評価について、5 名の選考委員により一次審査を行いました。二次審査はウェブ会議で開催し患者さんのご家族にもオブザーバー参加をお願いし、患者・家族の視点による評価も加えています。いずれの応募課題も優れた内容で、情熱の感じられる課題ばかりでしたが、特に評価の高かった 3 課題を採択させていただきました。採択した課題は以下のとおりです。

2023 年度多発性骨髄腫研究助成 助成額総額 300 万円

徳島大学病院 輸血・細胞治療部 三木 浩和 先生 助成額 150 万円

「温熱療法を用いた髄外形質細胞腫に対する新規治療法の開発」

自治医科大学 幹細胞制御研究部 長田 直希 先生 助成額 100 万円

「多発性骨髄腫に予後悪化に働く non-coding RNA (lncRNA) の探索と機能解明」

大阪公立大学 血液腫瘍制御学 高桑 輝人 先生 助成額 50 万円

「機械学習を用いた多発性骨髄腫の患者個別の予後予測ツールの開発」

三木先生の課題は、骨髄腫に合併する髄外形質細胞腫(腫瘍)に対して痛みを軽減しつつ、体内の免疫細胞も強化できる酸化鉄含有ナノ粒子を用いた温熱療法を開発する研究です。長田先生の課題は、免疫調節薬やプロテアソーム阻害薬の抵抗性に関与し蛋白質に翻訳されないリボ核酸 (lncRNA) の機能を明らかにして治療効果予測や新規治療開発を目指す研究です。高桑先生の課題は、実臨床における多数例の骨髄腫患者さんの治療効果と副作用の電子カルテデータを用いて、機械学習や統計モデルを使用して個々の患者さんに適した治療を提案するアプリを開発する研究です。

基礎研究、臨床研究を問わず、日夜奮闘されておられる諸先生から今後も本研究助成事業に多数の応募があり、研究成果が患者のみなさまのお役に立つことを祈っております。

2024 年 1 月

日本骨髄腫患者の会 多発性骨髄腫研究助成 選考委員会委員長

飯田 真介